

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072000381		
法人名	有限会社 粕川カトレアホーム		
事業所名	グループホーム 粕川カトレアホーム		
所在地	前橋市粕川町深津1144-2		
自己評価作成日	平成22年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが持てる力を発揮し、安心感に満たされた充実した日々が送れるよう、過不足無い支援を心掛けています。そのため、清潔で安全に配慮した住空間、季節に即したしつらい、行事、利用者の自信や誇りにつながる発表や作品展示、健康保持のための体操、体に応じた訓練、清掃、買物など、暮らしを共に楽しむ生活、オムツをなるべく使用しない取り組み又、社会とのつながりを持続する生活として地域との交流にも努めている。祭りの参加、花の日に地域の幼稚園児の訪問を受けて楽しい一時を過ごし、散歩の折のお互いの声かけなど社会性を失わないためにも力を入れている。常駐看護師2名、嘱託医との連携を図った終末期のケアなど、常に本人、家族、職員、医師等一丸となった愛ある介護・支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の一員として道普請や納涼祭等各種行事に参加し、散歩の時には「お茶をどうぞ」と声をかけられたり、花を頂いたりしている。また、無断外出者をバトカーや近所の人が連れて来てくれるなど地域との協力関係が築かれている。隣接した畑には栗や柿の木が植えられ、季節の野菜が栽培され、入居者が収穫した新鮮野菜や栗ご飯が食卓を潤している。入居者はテーブル拭きやお茶いれ、栗の皮むきや渋取り等能力に応じた役割を担い、職員が心を込めて調理した食事を入居者全員が楽しみに待ち望み、すべての人が完食し、食後は和やかに談笑している。危篤時における個人毎の支援方法や連絡方法等のマニュアルを作成し、重度化や終末期に向けた方針が共有され、家族や本人が希望する場合は、看護師の資格を所有する2名の職員が医師の指示に基づき重度化対応や看取りを行っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員との会議等においては、ホームの理念(愛ある介護他)基本方針(地域との連携他)に基づいた介護計画を立てている。常に管理者と職員が理念や基本方針を共有・実践し、介護・支援に活かしている。	「愛ある介護、誠実な介護」を理念に、無断外出者についてはデータに基づき家族に説明し信頼される介護に努めている。4項目の基本方針を定め、地域への行事参加、人的交流等を図ることにより、地域社会と一体となった介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、町内会の納涼祭には招待を受け、利用者・職員共に参加。毎年6月の花の日には、幼稚園児の訪問を受け、利用者も楽しみにしている。散歩の折には、お互いに声掛けを実践している。	自治会に加入し、道普請の参加、葬儀受付を担当したり、納涼祭では金魚すくいや屋台での買い物を楽しんでいる。また、散歩の時に「お茶をどうぞ」と声をかけられたり、花を頂いたり、近隣の梨園で梨狩りを行ったり、幼稚園児の訪問を受けたり、無断外出者をパトカーや近所の人が連れて来る等地域との協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者の来所、また、入所の目処が立たない人、老後への不安等、電話での相談も多く受けるが、常に誠実に対応している。相談内容によっては、アドバイスもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、推進会議を行っている。メンバーは自治会長、民生委員、地域住人、利用者家族の代表者、市の担当職員等、多岐に渡っており、それぞれの方から、意見・アドバイスを戴き、ホームの運営に役立てている。	偶数月に開催し、事業概況の報告や年間行事計画等を議題としている。また、災害時の協力依頼等を行ったり、意見交換では無断外出者に対する名札着用や自治会主催の祭りなどの催し物等の情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にも出席して頂いているが、日頃から連絡を取り合い、連絡事項の漏れの無い様留意している。ホーム内で迷う事項に関しては、市の担当者に相談・アドバイスを受ける様にしている。	更新書類を本庁や支所に持参した際に、夜勤者との申し送り時間帯や勤務者が少ない昼休みの施錠、消火避難訓練時の消防署の立会い等について指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には毎年参加し、参加者からは、必ず内容の報告を受け、職員全員が共通認識を持ち、拘束のない介護を実践している。玄関の施錠は、玄関横に受付窓口があり、基本的には施錠していない。	身体拘束に関する研修受講後は職員会議で発表し、共通認識を持つよう努めている。無断外出者には見守りを行い、散歩や買い物等で気分転換を図るなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には必ず参加し、内容の報告を受け、勉強会を行っている。虐待防止には、普段の人間関係が大切との観点から、互いを認め合い親しむなど、ホーム内の雰囲気作りに心を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までの利用者で制度を必要とした人はいないが、研修等で制度に関する知識は持ち合わせているので、対象者が出た場合には活用出来る様に支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入所時に家族、本人が理解できる場合には本人共に契約に関する詳細な説明を行い理解をし、納得戴いた上で必要な項目にサインを戴いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の希望・要望は、普段の生活や、面接の折に気軽に話せる雰囲気となっており、その都度、解決を図っている。また、話せない場合を考え、意見箱を設置しているが、今のところ投書はない。	家族が毎月の利用料を持参した際に話し合いをもち、要望等を聞いている。買い物や祭り見物等の入居者の希望は、9(ナイン)ノートに記録し送り時に話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年4回。その他必要に応じ、職員会議を開いている。意見・アイデアなど、自由に発言してもらい、良いと思われるものは、運営また、日々の介護に役立てている。ショートミーティングは毎日行っている。	全員参加の職員会議を3ヶ月毎に夜間開催し、引継時に行うショートカンファレンスの活用、業務変更に伴う伝達の徹底、入居者の高齢化による状態に合った介護の見直し等を話し合い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態に関しては、事前に希望を聞き、取り入れている。又、日常の勤務も、一人の人に過重な負担とならぬよう配分している。職員の良いところは認め、向上心や誇りを持てる様、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に勉強会やデモンストレーションを行い、必要な知識・技術の修得・向上を目指している。特に新人の場合は、ケアに際しアドバイスを欠かさず、質の高い人材となる様、その育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の会議・大会には、管理者・職員、共に必ず出席している。又、その後、報告会や会議を持ち、日々の介護に活かせる様、その共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との話し合いには時間をかけ、要望・希望・その他耳を傾けている。本人の望む介護を優先し、不安解消に努め、信頼関係を早期に築ける様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・不安なこと等にも、最初の話し合いの場で時間をかけ、耳を傾ける事により、信頼関係が築けるよう努めている。又、電話での対応も、誠実・丁寧を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの場で、何を必要としているかを、又、本人を見守る事により、何が必要かを把握できるよう努めている。医療的対応が必要な場合は、提携病院があり、速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共にする事で、本人の出来る事・出来ない事等、見極める事に努めている。本人が迷う時、出来ない時には、さりげなく手を貸すなど支援している。清掃・食事時など、楽しみながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、本人・家族と十分に過ごして頂いているが、リビングで他の入所者と共に楽しい一時を過ごされる方もおられる。本人・家族・職員の関係を常に良好に保てる様努めている。家族との情報交換も常にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行くこと、墓参り、馴染みのお店での買物等、出来る限り希望を叶える様支援している。	外泊や外食・墓参り等は家族が対応し、馴染みの店での買い物や理美容院の利用は職員が対応し、家族の協力を頂きながら馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時・お茶の時間・その他日常的に目配りを欠かさず、利用者同士の関係を把握するよう努めている。声かけ・テーブルの着席位置など、気配りする事により、より良い雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所した後も、問合わせや相談等には、入所時と変わる事なく誠意を持って取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人の持っている特技や趣味を最大限に発揮できるよう、取り組んでいる。歌や楽器などはお茶の時間などに披露してもらい、俳句や貼り絵なども支援し、自信・誇りを持つ事につなげ、又、共に楽しんでいる。	夜勤時に入居者と落ち着いた話し合いの時間をもち、祭りの見物や買い物、食べたいもの等の希望を聞き「サインノート」に記録し対応している。会話の不自由な人には顔の表情や仕草・問いかけなどから希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への聞き取り・意向・家族への聞き取り等、時間を充分にかけ、一人一人の全体像を把握する事に努め、ホームでの生活がより快適なものとなる様力を注いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず日常生活に気配り・目配りする事により、現在の状況をより的確に把握することに努め、より良い介護・支援に活かせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームのスタッフとの話し合い・申し送りは、朝夕毎日行っており、本人に適した介護・支援に努めている。家族や他関係者との情報交換も密にしている。	4ヶ月毎のアセスメントを基に施設サービス計画書の定期見直しを行うと共に、入居者の状態に応じ毎月見直しを行っている。職員1名が入居者1～2名を担当し生活状況等を記録して、課題や問題点をサービス計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の話し合い・申し送り等、全て記録に残し、支援に役立てている。又、職員間で情報を共有する事により、より良い介護が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が、その家族と共に行っていた事が出来なくなった場合(墓参り・買物・その他)施設が代わって支援している。介護以外の事でも、本人が希望した場合は出来る限り叶えられる様支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに大室公園があり、広大な公園のため、散歩・花見・お弁当を持っての昼食会を開催している。梨園やりんご園もあるため、梨狩りやりんご狩りも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの嘱託医として、内科・外科・整形外科・歯科があるが、本人がかかりつけ医を希望した場合は、かかりつけ医の受診を支援している。	家族の了解の下に全入居者がホーム協力医に受診し、定期検診は職員が対応している。また、緊急時は協力医が往診し、点滴等の医療行為は医師の指示の下に看護師の資格を所有する2名の職員が対応し、その状況等を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、看護師二名が常駐しており、必要に応じて対応している。又、職員に対し、看護師が情報の提供・技術支援を常に行い、介護の向上を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院した場合も、安心して治療出来るよう、密に訪問している。又、病院と情報交換し、本人の状態の把握に努め、施設での受け入れについても、医師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、終末期に入った場合でも、病院でなく施設を希望する方も多く、その場合、本人・家族・医師との話し合いを密にし、出来る限り本人の希望を優先している。終末期の対応もマニュアル化している。	危篤時の個人毎の支援方法や連絡方法等のマニュアルを作成し、重度化した場合や終末期に向けた方針が共有され、家族や本人が希望する場合は医師の指示を受け重度化対応や看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルの作成、利用者の状態から発生しやすい事故(窒息・転倒など)に対する応急手当や対応は、常に徹底している。日頃から対応の勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春秋年2回避難訓練をしている。いかに短時間で安全に利用者を非難させるか、日頃から全職員で取り組んでいる。又、地域の消防署の指導・対策も受けている。	年2回消火・通報・避難訓練を行い、1回は消防署の指導を受け、また、夜間を想定した訓練を行っている。地域の方の協力依頼は、運営推進会議で行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を通し、一人ひとりの性格・人柄の把握に努め、相手を認め常に人格を損ねないよう会話等に気配りしている。プライバシーに関しては、知り得た情報は外部に漏らさない様配慮している。	排泄誘導や入室に際しての声かけは、入居者の尊厳を傷つけないよう配慮している。個人情報の取扱いについては入職時に守秘義務の遵守につき指導し、書類は事務室に保管するなど情報管理に意を用いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話、仕草などを通じ、本人の思いや希望をくみ取る様努力している。また、会話が不自由な方は目の動き・動作などからくみ取っている。何時の時も“相手の立場に立つて”をモットーに本人の希望に沿えるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕のスタッフとの話し合い・報告を通じ、一人ひとりにふさわしい介護・支援をする事により、日々の暮らしを心地良いものと出来るように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや、季節に即した服装を心掛けています。耳・爪・髪の手入れも常に気配りし、清潔感にあふれた身だしなみに努め、必要に応じ化粧もしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一律に食事を用意するのではなく、好み・体の状態に応じ、対応している。食事やお茶の時間も、手伝いの出来る方には手伝って頂き、楽しみながらしている。	隣接した畑に栗や柿の木が植えられ、季節の野菜が栽培され、入居者が収穫した新鮮野菜や栗ご飯が食卓を潤している。また、入居者はテーブル拭きやお茶出し、栗の皮むきや渋取り等能力に応じて手伝っている。食事の時間を入居者全員が楽しみに待ち望み、すべての人が完食し、食後は和やかに談笑している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに対応し、普通食・きざみ食・ミキサー食等になっている。なるべく素材の持つ味・バラエティーに富んだ献立・季節感も楽しんでいただけるよう努めている。水分量も一人ひとりに対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った介助を徹底している。口腔状態は健康に関係するため特に気を使い徹底して清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用は避けるよう努力している。時間を見計らってトイレに誘導している。一人ひとりの習慣を見極め、排泄の自立に努め、本人の自信や誇りの保持につなげている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車椅子利用者やオムツ使用者のトイレ誘導を行い、排泄の自立に努め、家族からも喜ばれる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に日々の食生活の中で便秘予防に良いとされる、バナナ・プルーン・納豆など定期的に提供し、又、散歩や軽い運動を欠かさない。それでも便秘の場合は、原因を確かめるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの健康状態を第一に、又、意向も聞き取り、入浴を楽しめ、体の清潔も保つよう努めている。入浴後の水分補給にも、気配りしている。	週2日の入浴日は温泉マークの暖簾を掛け、入浴剤を使用し、一番先に入る人や仲の良い人同士で入る人など入浴を楽しんでいる。また、ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じてもらおう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の把握に努め、夜の安眠のために昼寝なども長くなりすぎないように、配慮している。特に車椅子の方には、起きている時と横になっている時間等を配慮しながら、夜、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指導の下に、服用して頂いている。投薬間違いの無い様、服薬表を作成し、確実に服用出来るようにしている。場合により、水に溶かすなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活を通じ、一人ひとりの特技や趣味を発揮できる様、努めている。ハーモニカ・歌など、お茶の時間に。貼り絵やカレンダー制作、箱折りで、生活に役立てるなど、支援している。自信や誇りにもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来る限り叶えるよう支援している。買物同伴・馴染みの美容室に行く等。又、季節に応じ、花見・紅葉狩りなどの外出もしている。	日常的な散歩や買い物、畑の手伝い、家族との外出や外食、年間行事計画に基づく梨狩りや紅葉狩り・大室公園へのバスハイク等戸外に出かける支援を行っている。日誌の散歩の欄に記録しているが、車椅子利用者の名前が記載されていない。	車椅子利用者の散歩も、日誌の散歩の欄に記載されるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さ、所持する等、お金に対する理解を失わない様、又、買物の支援も同伴し行っている。自己管理できる人にはして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員が出来る訳ではないが、出来る方には制限する事なく自由に行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にホームの内外を清潔にしている。季節の花を室内に飾り、又、庭で育て、目でも楽しんでいただける様にしている。強い陽ざし、大きな物音など避けるように配慮。穏やかな空間作りに努めている。	事業所は、畑に囲まれた静かな環境の中にある。玄関には入居者が制作したきり絵を印刷したカレンダーが掛けられ、花が活けられている。食堂や廊下には、地域の人から頂いた花や観葉植物が随所に置かれ、庭のバラソルの下で早朝の会話を楽しむなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子・畳どちらの空間もあるので、同じテレビを見るにも、各自思い思いの場所で、一人、又は、気の合った者同士で楽しむ事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室は、特に大切に思い、好みに応じた空間作りに配慮している。自分の今迄の生活の延長上にいられる様、配慮している。	テレビや家具、親戚一同の写真、各種の賞状、好きな絵本等思い出の品や馴染みのものが持ち込まれ、個性のある居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し、床には物を置かない様にしている。又、物の位置なども、利用者が混乱しないよう、むやみに動かさず、定位置を決めている。		